

実体経済の動向

◇出荷が大幅減少、在庫は再び増加

(生産——かなりの減少)

5月の鉱工業生産(速報、季節調整済み^(注)、前月比)は、-2.1%(船舶を除くと-2.2%)と前2か月増加(3月+2.5%、4月+0.9%)のあとかなり減少した(前年同月比+5.2%)。

(注) 以下増減率は特に断らない限り前月比(物価を除き季節調整済み)。

5月の生産を財別にみると、非耐久消費財が横ばいとなった以外は各財とも3か月ぶりにかんりの減少となった。すなわち、一般資本財は、電卓等が増加したものの、土木建設機械、ポンプ類、金属加工機械、電動機等ほとんどの品目で減少したため大幅減少となり、建設資材は鋼材、アルミサッシ等の落込みを主因に、また耐久消費財も乗用車、二輪車、エアコン等を中心にそれぞれ減少、生産財も鉄鋼、アルミ圧延品、繊維原料、天然糸に加え石油製品の反動減もあってかなり減少した。

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年			52年	52年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	124.4	126.5	128.7	129.4	130.7	131.9	129.1
指数							
前期(月)比	4.4	1.7	1.7	0.5	2.5	0.9	-2.1
前年同期(月)比	14.6	13.7	13.8	8.5	6.9	5.3	5.2
投資財	4.7	2.0	4.0	-0.5	4.7	0.5	-2.7
資本財	5.7	1.8	4.6	-0.3	5.6	0.8	-3.1
同(輸送機械を除く)	5.8	2.9	6.5	0.5	1.8	3.1	-3.3
輸送機械	5.7	0.9	1.0	-2.7	12.2	-2.3	-2.3
建設資材	2.4	2.5	2.5	-1.5	0.4	1.7	-1.6
消費財	4.4	-0.4	-0.9	2.2	3.2	0.8	-1.2
耐久消費財	5.3	-3.3	-1.2	4.3	6.9	1.2	-2.2
非耐久消費財	3.3	2.1	-0.4	0.8	0.4	-0.2	0.0
生産財	3.8	3.0	1.7	0.2	0.5	0.8	-1.8

(注) 1. 通産省調べ、52年5月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(出荷——前月に引続き大幅減少)

5月の出荷(速報)は、-2.4%(船舶を除くと-2.1%)と前月(-1.0%)に引続き大幅な減少となった(前年同月比+2.9%)。

5月の出荷を財別にみると、非耐久消費財が陶磁器、図画用紙、石けん等の増加を主因に3か月ぶりに増加した以外は各財とも軒並み大幅減少となった。すなわち、一般資本財は電卓等が大幅に増加したものの、土木建設機械、金属加工機械、電動機、ポンプ類等の落込みから大幅に減少、建設資材も鋼材、アルミサッシ、セメント、板ガラス等を中心にかなりの減少となった。また生産財は高炉製品(鋼板、鋼帯)、非鉄地金(電気銅、亜鉛)、非鉄二次製品、プラスチック(塩ビ樹脂等)、天然糸等を中心に、また、耐久消費財も民生用電気機械、ピアノが引続き減少したのに加え、軽乗用車、35ミリカメラ等も大幅に減少したためそれぞれ2か月連続かなりの減少となった。

(在庫——再び増加)

5月の生産者製品在庫(速報)は、+1.5%と3月減少(-1.0%)4月ほぼ横ばい(+0.1%)のあと再び増加し、在庫率(45年=100)も129.6と急上昇した(前月124.6船舶を除いても129.6<前月125.0>)

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年			52年	52年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	128.2	130.3	130.7	134.4	136.2	134.8	131.5
指数							
前期(月)比	3.2	1.6	0.3	2.8	2.9	-1.0	-2.4
前年同期(月)比	13.4	13.4	10.5	8.0	5.1	6.0	2.9
投資財	2.0	3.7	1.1	3.3	3.0	2.1	-5.0
資本財	1.6	4.6	0.6	5.0	3.9	3.2	-5.3
同(輸送機械を除く)	3.3	2.8	6.2	2.5	-0.2	3.2	-3.5
輸送機械	0.3	6.7	-5.8	7.5	8.8	2.9	-6.2
建設資材	2.5	2.5	1.5	-0.8	0.0	0.3	-3.7
消費財	3.8	-0.5	-0.4	4.9	1.0	-2.3	-0.4
耐久消費財	2.7	-2.7	0.3	7.5	4.7	-3.6	-3.1
非耐久消費財	4.4	0.5	-0.4	3.2	-1.2	-1.3	0.8
生産財	4.1	1.4	0.2	1.0	2.5	-1.2	-2.3

(注) 1. 通産省調べ、52年5月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鋳工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	51年 (期末)			52年 (期末)	52年		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鋳工業製品在庫率	158.0	160.3	167.8	167.7	167.7	167.9	170.4
指 数	158.0	160.3	167.8	167.7	167.7	167.9	170.4
前期(月)末比	-0.4	1.5	4.7	-0.1	-1.0	-0.1	1.5
前年同期(月)末比	-2.1	-1.2	5.3	5.6	5.6	5.7	7.5
製品在庫率	121.8	123.0	127.2	123.1	123.1	124.6	129.6
投資財	2.6	5.6	6.0	-1.6	-0.3	-1.8	1.4
資本財	4.9	7.4	6.3	-1.4	0.9	-2.3	1.4
同(輸送機械を除く)	5.4	7.3	5.4	-2.8	-3.2	-3.5	1.6
輸送機械	4.2	8.6	9.3	-1.1	7.4	-1.1	2.2
建設資材	-0.2	2.1	5.4	-1.4	-1.7	-1.0	1.3
消費財	3.5	3.5	4.4	-3.3	-1.4	0.1	1.5
耐久消費財	4.2	5.8	4.1	-2.3	-1.3	-1.3	2.7
非耐久消費財	2.8	0.9	4.1	-4.4	-1.2	1.8	0.2
生産財	-4.9	-1.4	3.8	3.0	-1.6	1.3	1.4

(注) 1. 通産省調べ、52年5月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

とかなりの上昇)。

5月の在庫は、各財とも増加した。まず一般資本財は、電卓、通信機械が減少したものの、原動機、ポンプ類、標準モーターが引続き増加し、小型トラクタも当月は大幅増加となったため、かなり増加し、建設資材もトタン、セメント、板ガラス等を中心に4ヵ月ぶりに、また非耐久消費財も金属洋食器、合成洗剤等を中心に2ヵ月連続の増加となった。また、耐久消費財も電卓(13けた以下)、二輪車がかなり減少したものの、エアコン、電子オルガン等が引続き増加したほか、軽乗用車、カラーテレビも当月は大幅増加をみたため4ヵ月ぶりにかなり増加し、生産財も紙・パ製品、繊維原料が減少したものの、非鉄地金(電気銅、亜鉛)、織物、化学肥料等が引続き増加したほか当月は非鉄二次製品(伸銅品等)、塩ビ樹脂、鉄鋼の増加も加わったため2ヵ月連続で増加した。

(設備投資——一般資本財出荷は大幅減少)

5月の一般資本財出荷(速報)は、前月大幅増加(+3.2%)のあと-3.5%と大幅減少した。

品目別には、減少を続けていた電卓(14けた以上)、稲麦刈取機が増加したほか、振れの大きい

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	51年		52年	52年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
民 需	2,467 (6.4)	2,707 (9.7)	2,829 (4.5)	2,642 (0.9)	3,129 (18.4)	2,375 (-24.1)
同(船舶を除く)	2,491 (4.7)	2,673 (7.3)	2,710 (1.4)	2,526 (-0.6)	3,053 (20.9)	2,188 (-28.3)
製造業	1,010 (-6.6)	1,087 (7.6)	1,161 (6.8)	1,202 (8.9)	1,158 (-3.7)	926 (-20.0)
非製造業	1,462 (19.8)	1,646 (12.6)	1,662 (0.9)	1,416 (-3.7)	1,913 (35.1)	1,438 (-24.8)
同(船舶を除く)	1,497 (16.1)	1,643 (9.8)	1,542 (-6.2)	1,341 (-2.4)	1,913 (42.7)	1,267 (-33.8)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

発電機も当月は著増したものの、金属加工機械、土木建設機械、電動機、ポンプ類のほか増加を続けていた電子計算機、工業計器等も当月は減少した。

5月の機械受注額(船舶を除く民需、前月比)は、-28.3%(前年同月比-4.8%)と前月大幅増加(+20.9%)のあと著減した。

業種別にみると、製造業からの受注は、食品、機械等が反動増となったほか、自動車も増加を続けたものの、化学、石油、鉄鋼等が前月に引続き大幅減少となったほか、紙・パ、その他製造業の反動減もあって-20.0%(前年同月比-16.6%)と大幅減少した。また、非製造業(船舶を除く)からの受注は、その他非製造業(金融・保険、ガス等)が大幅増加したほか、建設業も引続き増加したものの、前月著伸の電力が反動減となったほか、農林漁業、鋳業も大幅減少したため、-33.8%(前年同月比+10.4%)と前月著増(+42.7%)のあと大幅減となった。

この間、同官公需は、防衛庁向けが前月著伸のあと反動減となったものの、運輸、通信、その他官公庁向けが軒並み著伸したため、+6.1%と3ヵ月ぶりに増加した(前年同月比-4.9%)。

5月の建設工事受注額(民需、速報)は、+7.5%と前月減少(-0.8%)のあとかなり増加した。また官公庁分も+37.9%と4ヵ月ぶりに著増した。

◇5月の小売商況は足踏み状態

5月の全国百貨店売上高(速報)は、前月増加(4月+1.9%)のあと、+0.7%と微増にとどまった。

品目別(前年同月比)にみると、食料品はまずまずの伸びとなったものの、主力の衣料品が婦人物ののびえから伸び悩んだほか、身のまわり品、家庭用品、雑貨なども前月の伸びを下回った。

6月の乗用車登録台数(軽を除く)は、大衆車の売行き不振に加え、当月はモデルチェンジを前にディーラーの一部が販売を手控えたこともあって、前月増加(5月+3.2%)のあと-6.3%の減少となった。

◇商況の基調——引続き軟調地合い

6月の商品市況をみると、合織(自主減産継続など)やセメント(不況カルテル入り)など一部品

目が強含みに推移したものの、前月小幅上伸の鋼板類、洋紙が上げ一服となったほか、綿糸、生糸、非鉄金属、木材などが引続き軟化商況をたどったため、総じてみれば、軟調地合いを続けた。

これは、①梅雨入りに伴う荷動き鈍化もあって需要が総じて盛上りを欠いたこと(セメント、合板)、②これをうけて前月みられた在庫補充買いの動き(厚板、紙)が影を潜めたこと、③海外相場の軟調(綿糸、非鉄金属、砂糖)や輸入玉の予想以上の流入(綿糸、生糸、木材)が響いたこと、などによるものであるが、このほか需要の伸び悩みに伴う在庫調整の遅れから安値換金処分の動き(形鋼、合板)がみられたことも市況軟化の一因となっている。

(卸売物価——2か月ぶりに下落)

6月の卸売物価は、-0.2%と前月微騰(+0.1

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	52 年		52 年					
		1~3 月平均	4~6 月平均	4 月	5 月	6 月	上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	100.0	0.4	0.1	- 0.1	0.1	- 0.2	- 0.1	- 0.2	0
食 料 品	12.4	2.0	1.2	0.4	0.3	- 0.3	0.2	- 0.3	0.1
非 食 料 農 林 産 物	2.4	- 1.3	- 2.9	- 0.9	- 1.7	- 3.0	- 1.3	- 1.2	- 0.6
織 維 製 品	7.8	- 2.4	- 0.3	0.3	0.2	- 0.8	- 0.2	- 0.3	- 0.3
製 材・木 製 品	3.8	1.3	- 0.7	- 0.7	- 0.9	- 0.7	- 0.3	- 0.1	- 0.2
パルプ・紙・同製品	2.8	0.4	0.9	0.5	0.3	1.0	0.5	0.3	0.7
金 属 素 材	1.9	- 0.2	- 6.6	- 4.7	- 0.9	- 2.7	- 0.4	- 0.7	- 1.9
鉄 鋼	9.4	- 0.8	- 0.8	- 0.9	0.6	0.4	0.2	- 0.1	0.2
非 鉄 金 属	4.2	2.6	- 2.0	- 1.6	- 1.0	- 2.8	- 1.4	- 1.5	0
金 属 製 品	3.8	1.3	0.2	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0.1	- 0.2	- 0.1
電 気 機 器	9.0	0.3	0.5	0.3	0.5	- 0.2	- 0.1	0.1	- 0.2
輸 送 用 機 器	6.8	- 0.3	- 0.2	- 0.2	0.2	0	- 0.1	- 0.2	0.2
一 般・精 密 機 器	10.8	0.5	0.9	0.3	0.3	0.5	0.1	0	0.4
化 学 製 品	8.8	- 0.1	0.1	0.2	0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0
石 油・石 炭・同製品	4.6	0.7	0.1	- 0.4	0.3	0	- 0.1	- 0.3	- 0.1
窯 業 製 品	3.1	0.6	0.9	0.8	- 0.1	0.3	0.3	0.1	- 0.1
雑 品 目	7.6	0.4	1.0	0.7	0.3	- 0.2	- 0.1	- 0.1	0
工 業 製 品	85.5	0.2	0.2	0.1	0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0.1
大 企 業 性 製 品	63.3	0	0.2	0.1	0.3	- 0.2	- 0.1	- 0.1	0.1
中 小 企 業 性 製 品	20.1	0.5	0.5	0	- 0.1	0.2	0.2	0	- 0.1
非 工 業 製 品	14.5	1.2	- 0.1	- 0.4	0	- 0.6	- 0.1	- 0.6	- 0.1

(注) 日本銀行調べ。

消費者物価指数の推移

(単位・%)

		ウェイト	52年		52年			最近月の前年同月比
			1~3月平均	4~6月平均	4月	5月	6月	
東	総合	100.0	2.6	2.4	1.6	0.9*	-0.8	* 8.8
	季節商品を除く総合	91.9	1.4	2.8	1.7	1.1	0.3	9.1
	(季節商品)	(8.1)	(15.9)	(-1.4)	(0.8)	(-1.1)	(-10.8)	(5.8)
京	食料	40.1	4.3	0.8	0.3	0.6*	-2.0	* 6.5
	住居	11.1	1.3	1.6	0.5	1.2	0.4	6.2
	光熱	4.2	0	0	0	0	0	17.8
	被服	12.4	-1.8	0.9	0.1	0	-0.4	4.0
	雑費	32.2	2.8	5.6	4.3	1.9	0.1	13.4
全	総合	100.0	2.2	...	1.6	0.9	...	9.3
	季節商品を除く総合	91.7	1.4	...	1.6	0.9	...	8.7
	(季節商品)	(8.3)	(11.1)	(...)	(2.4)	(0.4)	(...)	(14.5)
国	特殊分類							
	農水畜産物	16.3	6.7	...	0.1	-0.2	...	9.8
	工業製品	46.6	-0.1	...	0.8	1.1	...	5.5
	うち大企業性製品	21.4	0.6	...	0.5	0.3	...	3.5
	中小企業性製品	25.2	-0.5	...	1.1	1.8	...	7.3
サービス	33.6	3.2	...	3.6	1.4	...	14.6	

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *は速報。

%)のあと、2ヵ月ぶりの下落を示した。

品目別にみると、パルプ・紙・同製品などが上昇した反面、繊維製品、化学製品などが国内実需の不振から、また食料品、非鉄金属、非食料農林産物が海外市況安を主因に下落した。このほか為替円高に伴う輸出入品の値下りもかなり寄与している。

(消費者物価——6月<東京都区部、速報>は大幅下落)

6月の消費者物価<東京都区部、速報>は、総合で-0.8%と前月の上昇(+0.9%)から一転して大幅に下落した(前年同月比+8.8%)。

これは、食料品が野菜、果物等の季節商品を中心にかなりの値下りをしたほか、被服も下落したためである。

なお、季節商品を除く総合では、+0.3%の上昇となった(前年同月比+9.1%)。

◇輸出は3ヵ月ぶりに減少

5月の国際収支(原計数)は、貿易収支が黒字幅

を大幅に縮小し、長期資本収支もかなりの流出超を続けたものの、短期資本収支が大幅流入超となったため、総合収支では、390百万ドルの黒字と前月(黒字、359百万ドル)に比べ、黒字幅は拡大した。

経常収支は、貿易外収支が赤字幅を縮小したものの、貿易収支が季節的要因もあって黒字幅を大幅に縮小(640百万ドル、前月黒字1,778百万ドル)したため、133百万ドルの黒字(前月黒字、1,229百万ドル)と黒字幅を著しく縮小した。

長期資本収支は、本邦資本が借款の落込みから流出超幅を縮小したものの、外国資本が対日証券投資の流入減に加え、外債発行も比較的少額にとどまったため、全体としては、233百万ドルと引続きかなりの流出超となった。

一方、短期資本収支は、原油輸入増に伴うユーザンスの享受増に加え、船舶輸出減少に伴う輸出前受金の引落し減から前月(流出超464百万ドル)とは様変りに305百万ドルの大幅流入超となった。

なお、5月の貿易収支を季節調整済みで見ると輸出は船舶引渡しの減少等からかなりの減少となった一方、輸入は、原油の入着集中もあって増加したため、収支じりでは、1,272百万ドルと高水準ながら前月(黒字1,745百万ドル)に比べ黒字幅は縮小した。

この間、外貨準備高は、月中66百万ドル減少し、月末残高は、17,251百万ドルとなった。

(輸出——3ヵ月ぶりに減少)

5月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、-5.4%と3ヵ月ぶりにかなりの減少を示し、原計数の前年同月比でも+16.0%と1年1ヵ月ぶり

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	51 年		52 年	52 年			51年5月
	7～9月	10～12月	1～3月	3 月	4 月	5 月	
経 常 収 支	983	1,865	868	866	1,229	133	226
貿易収支	2,715	3,319	2,736	1,560	1,778	640	683
輸 出	17,088	18,719	17,467	7,064	6,753	6,054	5,219
輸 入	14,373	15,400	14,731	5,504	4,975	5,414	4,536
貿易外収支	△ 1,673	△ 1,369	△ 1,782	△ 678	△ 530	△ 489	△ 450
移 転 収 支	△ 59	△ 85	△ 86	△ 16	△ 19	△ 18	△ 7
長期資本収支	△ 351	△ 901	△ 422	△ 228	△ 397	△ 233	54
本邦資本	△ 1,178	△ 1,595	△ 1,230	△ 656	△ 388	△ 247	△ 161
外国資本	827	694	808	428	△ 9	14	215
基礎的収支	632 (△ 115)	964 (1,302)	446 (1,899)	638 (567)	832 (799)	△ 100 (532)	280 (692)
短期資本収支	324	△ 48	187	307	△ 464	305	87
誤差脱漏	300	△ 270	△ 91	△ 10	△ 9	185	100
総 合 収 支	1,256	646	542	935	359	390	467
金融勘定	1,256	646	542	935	359	390	467
外貨準備増減	1,092	115	393	174	320	△ 66	273
そ の 他	164	531	149	761	39	456	194
外貨準備高	16,489	16,604	16,997	16,997	17,317	17,251	15,210
為銀対外ポジション	△ 14,634	△ 14,092	△ 14,080	△ 14,080	△ 14,008	△ 13,562	△ 14,527

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
51年7～9月	5,534 (+ 3.1)	4,878 (+ 10.7)	656	5,723 (+ 4.4)	5,655 (+ 9.1)	3,991 (- 0.8)	6,113 (+ 4.7)	5,733 (+ 8.8)
10～12月	5,795 (+ 4.7)	5,061 (+ 3.7)	734	5,879 (+ 2.7)	5,737 (+ 1.4)	4,141 (+ 3.8)	6,124 (+ 0.2)	6,546 (+ 14.2)
52年1～3月	6,472 (+ 11.7)	5,075 (+ 0.3)	1,397	6,480 (+ 10.2)	5,811 (+ 2.5)	4,517 (+ 9.1)	6,951 (+ 13.5)	5,976 (- 8.7)
52年2月	6,352 (- 1.0)	4,954 (- 3.2)	1,398	6,341 (- 2.8)	5,554 (- 7.0)	4,647 (+ 5.0)	6,859 (- 1.8)	5,988 (+ 0.7)
3月	6,645 (+ 4.6)	5,156 (+ 4.1)	1,489	6,575 (+ 3.7)	6,118 (+ 10.2)	4,479 (- 3.6)	7,011 (+ 2.2)	5,992 (+ 0.1)
4月	6,678 (+ 0.5)	4,933 (- 4.3)	1,745	6,822 (+ 3.7)	5,765 (- 5.8)	4,580 (+ 2.3)	7,248 (+ 3.4)	5,783 (- 3.5)
5月	6,319 (- 5.4)	5,047 (+ 2.3)	1,272	6,270 (- 8.1)	5,880 (+ 2.0)	4,461 (- 2.6)	6,869 (- 5.2)	6,061 (+ 4.8)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。

に10%台の伸びにとどまった。

品目別には、自動車、テレビが増加したものの船舶が大幅減となったほか二輪自動車、ラジオ、鉄鋼等もかなり減少した。

地域別には、米国向け、東南アジア向けは増加したものの、EC向け、中近東向けが減少し、中南米向けも6か月ぶりにかなりの減少となった。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、5月-2.6%のあと6月は+2.1%と再び増加した。

(輸入——再び増加)

5月の輸入(国際収支ベース)は、+2.3%と増加し、原計数の前年同月比でも+19.4%と前年水準をかなり上回っている。

品目別(通関ベース)にみると、羊毛、木材、大豆がかなり減少した反面、原油が入着の集中から大幅に増加したほか、石炭、化学製品もかなりの増加となり、鉄鉱石も4か月ぶりに増加した。

輸入承認・届出額(季節調整済み前月比)は、5月+4.8%のあと、6月は-5.6%と再び減少した。